



FURUKAWA

株主の皆様へ

第148期 中間(第2四半期)のご報告
2014年4月1日～2014年9月30日

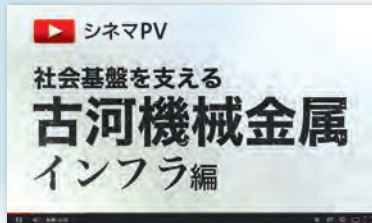
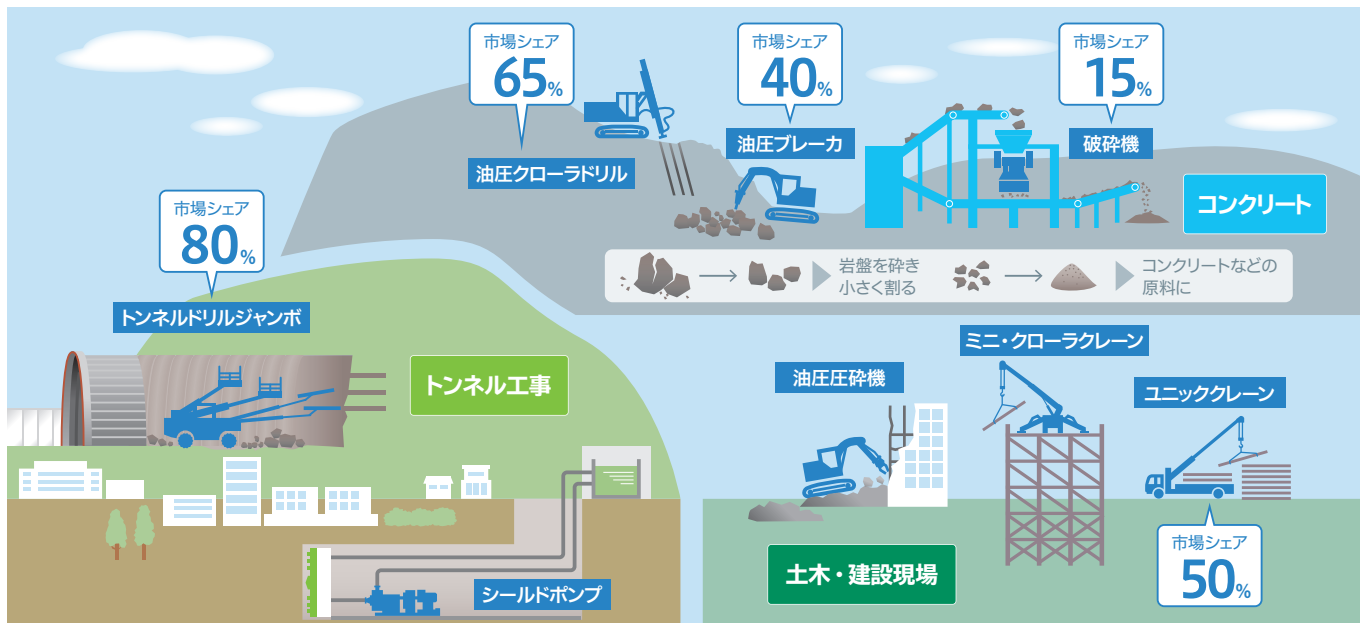
古河機械金属グループの事業領域	1
株主の皆様へ	2
特集 1	3
東北地域の復興に向けて	
特集 2	5
日本橋室町に新ビルオープン 室町古河三井ビルディング	
事業部門別の概況	7
財務データ	9
会社概要及び株式の状況	10

 古河機械金属株式会社

証券コード：5715

1875(明治8)年創業以来、当社は銅山事業を出発点に、常に時代の要請に応えるべく様々な事業を展開してきました。銅山開発で培われた当社のコア技術は長い歳月とともに進化発展し、現在の当社グループの事業領域の礎となっています。

インフラ整備にかかる当社製品群と国内シェア



古河機械金属 YouTube

検索

http://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w

インフラ整備の川上から川下まで、当社製品がどのように関わっているかをわかりやすく紹介したシネマPV(6分)です。

コンクリート原料(石灰石や砕石)の採掘現場で活躍する“油圧クローラドリル”や“破碎機”、トンネル工事現場で不可欠な“トンネルドリルジャンボ”や“シールドポンプ”、土木・建設現場で見かける“ユニッククレーン”など、現場で活躍する各種製品をぜひご覧ください。



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第148期第2四半期連結累計期間(2014年4月1日から2014年9月30日まで)の決算の概要をご報告申し上げます。

■■■ 経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動や、海外景気の下ぶれによるリスクを抱えるものの、景気は緩やかな回復基調が続きました。

このような経済状況のもと、当社グループの売上高は828億87百万円(対前年同期比43億30百万円増)、営業利益は37億55百万円(対前年同期比9億86百万円増)となりました。売上高は、産業機械、開発機械およびユニツクの機械3事業のほか、電子材料事業、不動産事業で対前年同期比増収となりました。営業利益は、主としてユニツク事業、開発機械事業の増収により増益となりました。経常利益は34億円(対前年同期比9億32百万円増)となりました。特別利益には、受取補償金、事業譲渡益ほか10億49百万円、特別損失には、固定資産除売却損、減損損失ほか1億6百万円を計上した結果、四半期純利益は19億27百万円(対前年同期比6億70百万円増)となりました。

2015年3月期の連結業績につきましては、売上高1,635億円、営業利益80億円、経常利益67億円、当期純利益42億円を予想しております。また、配当につきましては、期中予想の通り中間配当は行わず、期末配当予想を1株当たり3円とさせていただいております。

■■■ 中長期的な戦略について

鉱山開発時代から当社グループが継承発展させてきた技術は、時代の変化のなかで新たなニーズに応えようとしています。機械事業においては、復興の本格化、国土強靱化計画に伴うインフラ整備、リニア中央新幹線や整備新幹線などの交通インフラ建設、更に2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた土木建設計画等、堅調な国内需要を確実に取り込むことで収益体質の強化を図る一方、より大きな市場が期待できる海外のインフラ整備や鉱山開発等を中心に将来への基盤づくりを進めていきます。素材事業においては、金属事業では鉱石安定調達と権益確保のための鉱山投資を引き続き検討するほか、電子材料事業を中心とした新製品・新素材の早期事業化を図ってまいります。

株主の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年12月

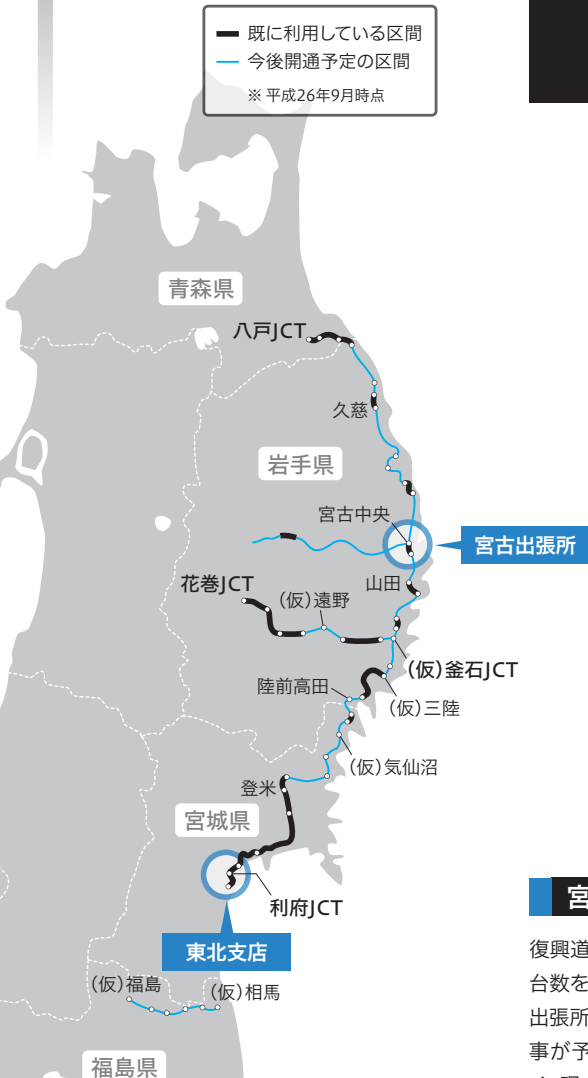
代表取締役社長

宮川尚久

東北地域の復興に向けて

復興道路・復興支援道路の進捗状況

- 既に利用している区間
 - 今後開通予定の区間
- ※平成26年9月時点



トンネルドリルジャンボの 営業・サービス体制強化に宮古出張所を開設

現在、東北地域では復興道路、復興支援道路などの交通インフラ整備が進行中で、6～7年後の開通を目指し各所で工事が行われています。山岳地帯のためトンネルも多く、現在多数のトンネル工事が急ピッチで進められており、ほとんどの現場で当社のトンネルドリルジャンボが使用されています。今後も工事件数は増える見込みで、ピーク時にはこの地域だけで約40台の稼働が見込まれます。

当社はトンネルドリルジャンボのほかトンネル工事用油圧ブレーカなど、山岳トンネル工事に必要な機械を扱っており、より現場に近い場所でサポートすべく、2014年6月に宮城県名取市にある中核事業会社である古河ロックドリル東北支店の出先機関として、岩手県宮古市に出張所を開設しました。



トンネルドリルジャンボ



油圧ブレーカ

宮古出張所について

復興道路、復興支援道路では開通を急ぐため、トンネル工事で使用するトンネルドリルジャンボの台数を増やして掘削を早めるなど、過去の工事例と比べ、非常に多い台数が稼働しています。宮古出張所では「全断面自動追尾式ナビゲーションシステム」等の新技術の導入はもちろん、特に難工事が予想されるリニア中央新幹線でのトンネル工事を見据えたゼネコンとの関係強化を図るべく、現在高稼働が続く東北地域での営業・サービス強化に努めています。



土砂の搬送、
盛土による
かさ上げが
進んでいます。



陸前高田市の復興事業において 鉱山開発で培った破碎・運搬技術が活きる

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市では、高台移転計画等の復興事業が実施されています。津波から街を守るため、隣接する山を削って高台を作り、人が暮らせる環境を整備するというプロジェクトです。

高台移転計画で当社が担当する事業は、土砂や岩石を破碎する大型破碎設備、破碎した土砂・碎石をかさ上げ地に搬送する長距離ベルトコンベア、河川対岸にベルトコンベアをわたす吊り橋の3つの設備で構成され、当社が設計から施工までを担い

ました。現在はこれら設備の運転管理を行っており、土砂の搬送、盛土によるかさ上げに貢献しています。早急な復興が求められるなか、来春には土砂の搬送がすべて完了する予定です。



機械の運転管理を行っている中央操作室

高台移転計画概略図と当社の担当事業



大型破碎設備



土砂・岩石を300mm以下の大きさに破碎する設備（フィーダ、スクリーン、クラッシャー）が8基。処理能力は国内最大規模の8,000t/hを有します。

吊り橋



「希望のかけ橋」と命名された主塔間距離220mの長距離ベルトコンベア専用仮橋。川の環境に配慮し、吊り橋構造を採用しました。

長距離ベルトコンベア



総延長約3kmの長距離ベルトコンベア。時速15km、搬送能力は6,000t/hで、10トンダンパーによる輸送と比較し、工期を1/3まで短縮できます。

日本橋室町到新ビルオープン 室町古河三井ビルディング

当社は、東京・日本橋室町において三井不動産(株)を含む複数の地権者と共同で「日本橋室町東地区開発計画」に参画してきましたが、2014年2月に「室町古河三井ビルディング」が竣工、3月20日には同ビル内に商業施設「COREDO室町2」がオープンしました。

老舗名店や日本橋初の映画館が入り、新たな賑わいをみせる日本橋室町。
当社ゆかりの地に建った新ビルは、不動産事業の新たな柱として収益基盤の強化に寄与するものと考えています。



日本文化を感じる商業施設と 企業ニーズに対応したオフィス

「室町古河三井ビルディング」は、地上22階、地下4階建てで、商業施設(地下1階～6階)、オフィス(7～17階)、賃貸住宅(18～21階)の三層から構成されており、当社の持分比率は48.49%となっています。商業施設には、老舗名店による新業態店舗をはじめ「日本の伝統」を感じられる店舗が出店する一方、日本橋初のシネマコンプレックスも入り、若者にも親しみやすい施設となっています。オフィス部分は、フロアの形状や大きさにバリエーションを設け、テナントニーズにあわせた対応が可能で、部屋の広さも1フロアで約557坪、天井高さ約3mと日本橋エリアでは大きな執務空間になりました。

また、建物の外観は周辺の歴史的建築物との調和に配慮し、仲通りには暖簾や行燈をモチーフにした老舗が軒を連ねるなど、「通り」に特徴を持たせたデザインになっています。



日本橋室町と当社の関わり



「室町古河三井ビルディング」の通りの北側に、当社創業者古河市兵衛の銅像が設置されています。日本橋室町は、1877(明治10)年に古河市兵衛が本店事務所を開設したいわば当社発祥の地で、1897(明治30)年に丸の内に移転されるまで本拠地としていました。本店移転後は私邸となっていたようですが、1917(大正6)年に古河銀行を設立した際、この地を銀行本店としました。その後、1959(昭和34)年には旧古河ビルを建設、そしてこの度の再開発計画により新ビルが誕生しました。



瀬戸物町(現・日本橋室町)にあった本店事務所



旧古河ビル

賃貸住宅

18-21階



フロア構成

21
20
19
18

17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7

6
5
4
3

2 2
1
B1

シネマコンプレックス

2-6階



商業施設

B1-2階



B1階 商業施設エントランス



1階 商業施設エントランス



1階 オフィスエントランス

7-17階

オフィス

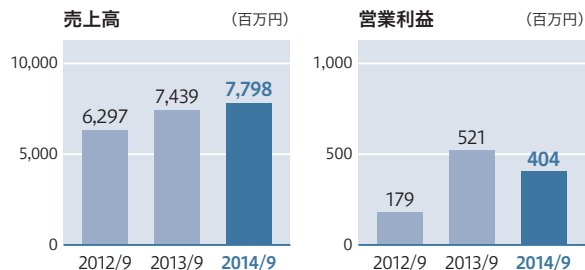
環境やBCP対策に配慮した機能性の高い設備を導入

「室町古河三井ビルディング」のオフィスには、LED照明や太陽光追従制御型電動ブラインドを採用するなど環境に配慮した設備を導入しています。

また東日本大震災以降、多くの企業で課題となっている防災やBCP(事業継続計画)への対策として、デジタルサイネージによる災害情報の放送、72時間対応の非常電源による電力供給、最高ランクの耐震性を誇るエレベータのほか、全フロアに防災備蓄倉庫を設置するなど、入居企業のBCPをバックアップする高機能なオフィスを提供しています。

Machinery

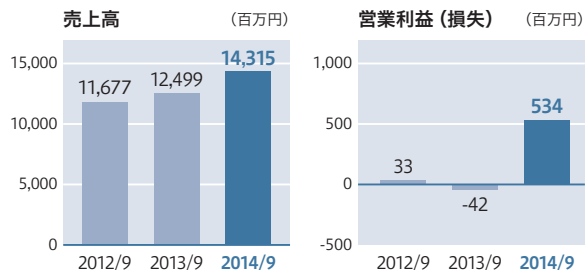
産業機械事業



官需向け橋梁や一般産業機械を中心に、売上を伸ばすことができました。震災被災地における高台移転工事については、出来高に対応した売上を計上しました。

開発機械事業

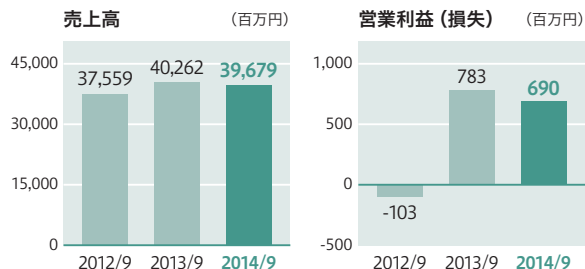
(ロックドリル)



国内は、油圧ブレーカ、油圧クローラドリルともに、それぞれ公共工事の増加や震災復興工事の本格化等に伴う需要により出荷が伸びました。海外は、北米やアフリカ向けに油圧クローラドリルや油圧ブレーカの出荷台数が順調に伸び、増収となりました。

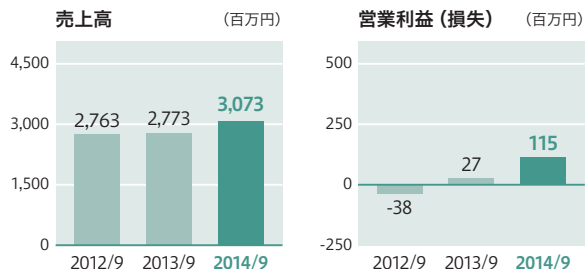
Material

金属事業



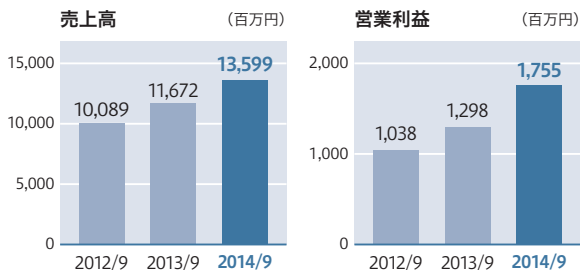
電気銅の販売量は48,219トン(対前年同期比126トン増)となりました。円安を主因として電気銅の売上は増加しましたが、金、銀等は生産数量の減少等により減収となりました。

電子材料事業



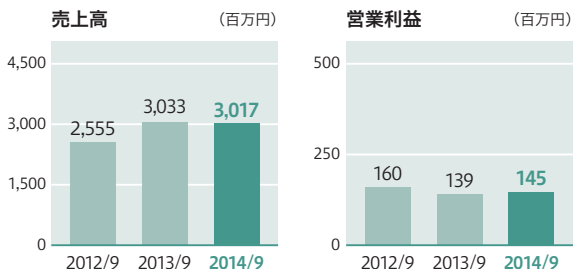
主力の高純度金属ヒ素については、原発事故風評被害により未だ苦戦が続いていますが、車載向けが好調なコイル等は売上を伸ばすことができました。

ユニック事業



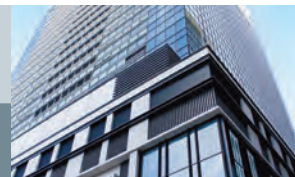
国内普通トラック登録台数は、経済対策効果からレンタル向け車両等の需要が旺盛で対前年同期比17.0%増となり、ユニックレーンの売上を大きく伸ばすことができました。また、ユニックキャリアの販売も好調でした。

化成品事業

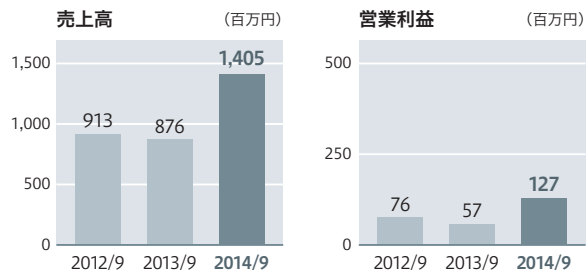


亜酸化銅は好調だった前年同期に比べ需要が落ち込みましたが、ポリ硫酸第二鉄溶液等の売上が伸び、売上高はほぼ前年同期並みとなりました。

Others



不動産・その他



2014年2月に竣工した室町古河三井ビルディングの賃貸収入により、不動産事業の売上高は10億24百万円(対前年同期比4億99百万円増)、営業利益は1億85百万円(対前年同期比89百万円増)となりました。

最近の主なニュースリリース

6月26日 宮古出張所を開設 ※ 詳しくはP3「特集1」をご覧ください。

復興道路、復興支援道路でトンネル工事が活況な東北地域において、トンネル機械の営業・サービスを強化すべく、岩手県宮古市に出張所を開設しました。

9月4日 『B-Pro』を販売開始

油圧ブレーカの稼働状況を監視し記録する装置『B-Pro』を開発し、販売を開始しました。光と音で作業者に適正な運転をナビゲーションするほか、稼働状況をパソコンに記録することが可能です。



9月5日 散乱エネルギー認識型ガンマカメラの開発に成功

無人ヘリコプターに搭載し上空から放射性セシウムを可視化するガンマカメラを(独)日本原子力研究開発機構ほかと共同で開発しました。これにより、汚染状況の高精度なマップを作成することができます。

10月1日 林業用グラブローダ3機種を新発売

原木を積み降ろしする林業用グラブローダを開発し、販売を開始しました。フォワーダに取り付けることで木材の集積作業と運搬作業が1台で行え、林内作業の効率化が図れる製品として期待されています。



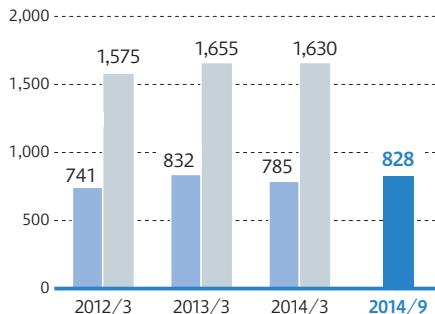
財務データ

■ 第2四半期(中間) ■ 通期

売上高(連結)

828億円

(億円)

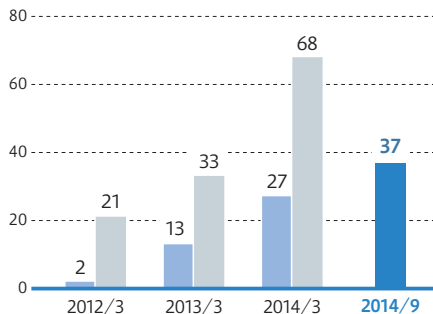


産業機械、開発機械およびユニックの機械3事業のほか、電子材料事業および不動産事業で対前年同期比増収となり、売上高は828億87百万円(対前年同期比43億30百万円増)となりました。

営業利益(連結)

37億円

(億円)

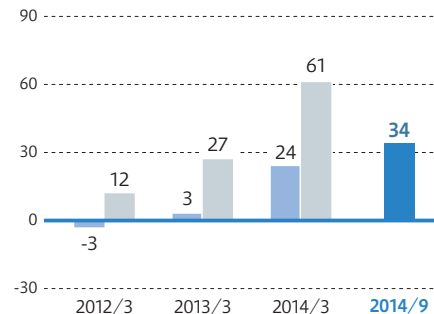


ユニック事業、開発機械事業での増収により増益となり、営業利益は37億55百万円(対前年同期比9億86百万円増)となりました。

経常利益(連結)

34億円

(億円)

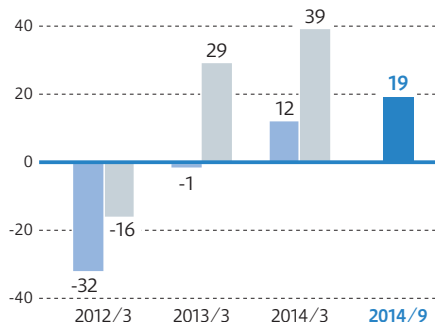


経常利益は34億円(対前年同期比9億32百万円増)となりました。

純利益(連結)

19億円

(億円)

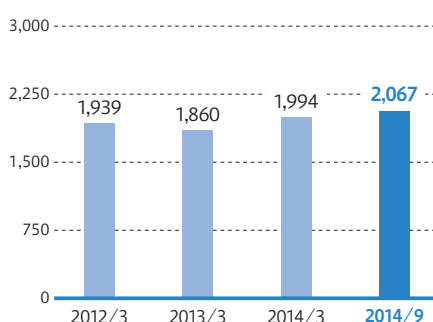


特別利益に受取補償金、事業譲渡益ほか10億49百万円を計上し、特別損失に固定資産除売却損、減損損失ほか1億6百万円を計上した結果、四半期純利益は19億27百万円(対前年同期比6億70百万円増)となりました。

総資産(連結)

2,067億円

(億円)

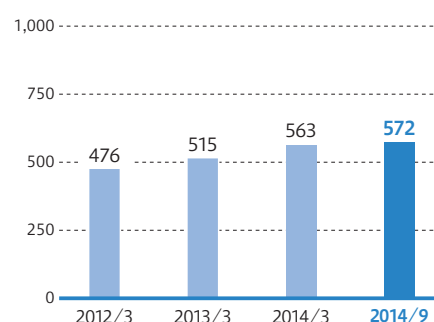


主としてたな卸資産の増加により、総資産は2,067億15百万円(前連結会計年度末より73億6百万円増)となりました。

純資産(連結)

572億円

(億円)



その他有価証券評価差額金の増加などにより、純資産は572億85百万円(前連結会計年度末より9億72百万円増)となりました。自己資本比率は26.9%(対前期末比0.5ポイント悪化)となりました。

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

創 業 1875(明治8)年8月
 設 立 1918(大正7)年4月
 資 本 金 282億818万円
 従業員数 2,474人(連結)
 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
 電話(03)3212-6570

取締役及び監査役

代表取締役会長 相馬 信義
 代表取締役社長 宮川 尚久
 取締役副社長 座間 学
 常務取締役 中村 晋
 常務取締役 松本 敏雄
 社外取締役 吉田 政雄
 取締役 大田 彰則
 取締役 岩田 穂
 常勤監査役 江本 善仁
 常勤監査役 幸崎 雅弥
 社外監査役 石原 民樹
 社外監査役 友常 信之
 社外監査役 初瀬 良治

執行役員

副社長執行役員 座間 学
 常務執行役員 中村 晋
 常務執行役員 松本 敏雄
 上級執行役員 大田 彰則
 上級執行役員 岩田 穂
 上級執行役員 渡邊 修
 上級執行役員 渡邊 泰史
 上級執行役員 松戸 茂夫
 上級執行役員 三村 清仁
 執行役員 加藤 直樹
 執行役員 池部 清彦
 執行役員 久野 佳成
 執行役員 井上 一夫

古河機械金属グループ

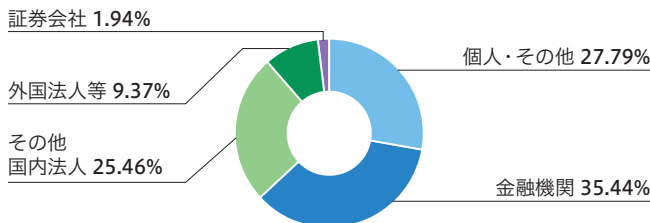
機械事業	産業機械事業	古河産機システムズ(株)
	開発機械事業	古河ロックドリル(株)
	ユニック事業	古河ユニック(株)
素材事業	金属事業	古河メタルリソース(株)
	電子材料事業	古河電子(株)
	化成品事業	古河ケミカルズ(株)
その他事業	不動産事業ほか	古河機械金属(株)

株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	404,455,680 株
株主総数	27,494 名

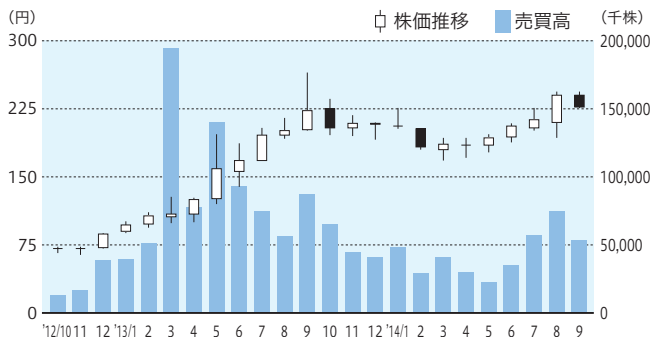
所有者別株式構成



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	31,124	7.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,637	7.32
朝日生命保険相互会社	23,734	5.86
清和綜合建物株式会社	15,034	3.71
横浜ゴム株式会社	13,411	3.31
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	10,756	2.65
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
中央不動産株式会社	6,877	1.70

株価の推移



株 主 メ モ

■ 本社

〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話 (03)3212-6561 (法務部)

■ 事業年度の末日 3月31日

■ 定時株主総会 6月

■ 定時株主総会の基準日 3月31日

■ 期末配当の基準日 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日

■ 公告掲載のホームページ <http://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

■ 単元株式数 1,000 株

■ 株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■ 特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■ 郵便物送付先及び各種お問合せ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120)782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

■ ■ 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ ■ 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「丸の内キッズジャンボリー 2014」に 出展しました!



東京国際フォーラムで2014年8月12～14日まで『丸の内キッズジャンボリー2014』が開催されました。「子どもたちへ、未来の夢を育む感動・発見・驚きを届けたい」というコンセプトのもと、多くの企業、団体、行政機関、NPO法人が参加・体験型イベントを企画しており、古河機械金属グループとして今年も出展しました。

昨年同様、「油圧クローラドリル」や「ミニ・クローラクレーン」を展示し、乗車体験ができるようにしたほか、陸前高田市の高台移転工事のジオラマ展示や場内スタンプラリーなど新企画も実施しました。操縦席での記念撮影には親子連れの長い列ができるなど、子どもたちの笑顔あふれる3日間となりました。



●パンフレット、フォトギャラリーはこちらをご覧ください
<http://www.furukawakk.co.jp/fkkplanet/event/>

WebサイトでもIR情報をご覧ください!

株主・投資家情報ページ
<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>



FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)

電話 (03)3212-6570

<http://www.furukawakk.co.jp>



VOC
FREE T&K